

秋田大学

日本語・日本文化研究論文

若者言葉に見られる中性化に関する一考察

秋田大学教育文化学部

サスノーウスカヤ・ナスタツシア

指導教員：市嶋 典子 先生

目次

1. はじめに	3
2. 日本語の中性化	5
2. 1 言葉とジェンダーの関係	5
2. 2 日本語とジェンダーの関係	5
2. 3 日本語は中性化になっているのか	7
3. 研究方法について	9
3. 1 現代の日本語はどのように中性化になっているのか	10
3. 1. 1 伝統的な方言形	10
3. 1. 2 新しい語形	11
3. 1. 3 共通語形	13
3. 2 若者が使っている日本語でどのような男女語の跡が残されている	16
3. 2. 1 一人称代名詞の使い方	16
3. 2. 2 男性会話に見られる男ことばの使用	17
3. 2. 3 女性会話における男ことばの使い方	18
4. 結論	20
文献	22

若者言葉に見られる中性化に関する一考察

1. はじめに

様々な言語学者の研究書は世界の言語における男女別の言葉の特徴に基づいている。井出祥子や井上みやこの研究要点は女言葉に繋がっているようである。

一番最初に読んだリサーチは Ueno (2017) のリサーチだった。Ueno リサーチを読み、男女語の機能、または文法的な特徴を知ることにとどまらず、人間の心理や知識も分かるようになった (Ueno, 2017)。

筆者は初めて男女語の使用に注目したのは日本語で漫画を読むときだった。筆者の母語 (ベラルーシ語とロシア語) は日本語のように男性語・女性語に区別されていないため、その発見は筆者にとって非常に興味深かった。しかし、Ueno (2017) のリサーチを読む前に、男女語の区別はどんな意味を持っているのかやどうして社会にはそのような性差が存在しているのかについて変えたことがなかった。

そして、Ueno 研究書を読んだ後、男女語に関するテーマに興味を持ち、少しずつ様々な言語学者の研究紙を読めば、歴史的や社会的な理由も知るようになった。Lakoff (1975) の研究を読んだとき、女性語と男性語の違いはただの言葉の区別ではないと分かった。なぜかという、その区別は様々な心理的や社会的な故から生じるからである (Lakoff, 1975)。

男女語とは一般的にある言語で話せる人の性別によつての文法的と形式的な違いである。例えば、女性語の特徴は圧倒的な相槌の使い方であり、そして男女語の特徴は寧ろ相槌を避けることである (Inoue, 2002; Ide, 1990)。

世界中でロシア語やスペイン語のような性別によつて文法が異なっている言語が多い。具体的に言えば、ロシア語の場合、過去形で動詞の語尾は名詞や代名詞の性によつて変更になっている。そのような変更は「文法性」と呼ばれている。

しかし、日本語は少し違う。日本語における男女語は文法的にあまり違っていない。なので、もし日本人の女性が男ことばで話そうとしたら、その女性は文法的な間違いをせず、ただ「男性っぽく」話すだけだ。または、男性も同じように女ことばを使えば、「女らしい」言葉づかいをしても、文法的には間違いを何もしない。

または、小説や漫画を読むとき、「～ぞ」や「～かしら」のような文末形を見かけると、日本語が理解できる人なら直ちに話し手の性別が分かると。そして、一人称代名詞の選び方からも、様々な特色を分かってくる。一方、文末形や一人称代名詞が異なっても、ロシア語と違い、日本語の文法が全く変わっていない。しかし、読者は人称代名詞と終助詞を頭の中で組み合わせれば、登場人物の性別を判断できる。

その理由は、日本語の場合、男女語の区別は直接に性役割とつながっているからである。男性の話し方は「気が強い」や「根拠のある」というイメージとつながってい

る。寧ろ、女性の話し方は「女らしい」や「貞淑」のイメージがある。前の例を見れば、「俺」と「ぜ」は確かに積極的だが、「あたし」や「かしら」は逆に女らしく聞こえると考える。その上で、正確な感情を表現することに、終助詞の選び方も大事な活躍をしている。しかし、女性語では積極的な終助詞があまりにもない。または、話しているとき、男性より女性の方が丁寧語を使うのは期待されているようである (Matsumoto, 2002; 中村, 2012)。

現在の日本語だと言え、女性言葉はもうなくなったという意見がある。丹羽 (1994) や小林 (1993) の研究は女性語の使い方を分析し、若い世代の女性の日本語は一般かしているということを示している (丹羽, 1994; 小林, 1993)。しかし、「女ことば」がなくなったと言っても、「男ことば」の状態はどうなっているのかははっきり言えない。前に言ったように、女性の言葉づかいについての研究の上で、女性語の歴史、社会的やジェンダーの問題を検討する綿密な研究が多い。しかし、男性の言葉づかいと女性の言葉づかいを比較し、現在の日本語の状態を調べる研究はほとんどいない。

なので、本論では、男女語の使い方を分析して、以下の点をもっと詳しく調べる。

1. 中性化とは何か
2. 現代の日本語はどのように中性化になっているのか
3. 若者が使っている日本語でどのような男女語の跡が残されているのか

2. 日本語の中性化

2. 1 言葉とジェンダーの関係

しかし、中性化の定義を書く前に、言葉とジェンダーの関わりについて話す必要があると考える。

人々の印象は日常生活で使われてる言葉に頼っている。例えば、荒い言葉を使っている人は激しいイメージがある。一方、丁寧に話している人は優しく見える。そして、たくさんの専門用語を使っている人は賢いと思われているだろう。

斯くて、私たちの話し方は育ち方、社会的地位、文化、または性別によって変わってくる。アメリカで行われた研究の結果によると、子供が5歳になるまで性差のある言葉を使い始める (Haas, 1979)。何故かという、男女の教育には差異があるからである。子供の頃から女性は「女らしく」、男性は「男らしく」振る舞えるように期待されている (Lakoff, 1975)。

川口によると、「男らしさ」と「女らしさ」は「男は仕事、女は家庭」という分業の性役割に基づいている。すなわち、「男らしさ」は闘争心、統率力、決断力などと、「女らしさ」は優しさ、手先の器用さ、従順さなどとみなされている (川口, 2013)。

人は子供の頃からその特徴を受け入れ、そして、その特徴は教育や社会の影響において成長するたびに強化されている (Haas, 1979)。

例えば、ある研究によると、男性より女性の方が過剰修正で、あいづちを使いながら話している。一方、男性はあいづちを避けるの上で、女性より話し手を遮る傾向がある (Maltz & Borker, 1982; Tannen, 1990)。

それで、上に述べたものから次のことが明らかになる：

1. 性役割は子供のときから身に付けられる。
2. ジェンダーによって話し方が異なる (Maltz & Borker, 1982)。

ただし、最も重要なのは性役割というものが文化・社会的に作られた性差であり、生まれつきの性差ではないということである (川口, 2013)。

このようにして、人々は子供のときから無意識的に性役割を身に付けていると言える。

2. 2 日本語とジェンダーの関係

ここに「世界中の言語で言葉とジェンダーの関係が現れているなら、日本語の男女語もきっと同じだろう」という議論が出てくるかもしれない。

男女語が生じたのは一般的に明治時代だと考えられている (Inoue, 2002)。もちろん、明治時代の前にも男女の違いが存在していた。中村桃子の「ことばとジェンダー」によると、奈良・平安時代のとき女性はひらがなの成立に重要な役割を演じたし、鎌倉・室町時代に宮中に勤めた女性達が「女房詞」という仲間内の言葉を発達させ、それは一般的に日本語に大きな影響を与えた (中村, 2001, p.209)。

または、遠藤織枝が行った研究には男女語の誕生として明治時代を示している。遠藤は式亭三馬の「浮世風呂」と夏目漱石の「三四郎」の登場人物の会話を分析し、両作品を比較した（遠藤, 1997）。

表1 「浮世風呂」と「三四郎」の文末形の比較（遠藤, 1997）

文末形	浮世風呂（1813）	三四郎（1909）
だ・だね・だよ・だな・だぜ・だぞ	両性	男性のみ
だわ	両性	女性のみ
な・さ・ぞ・ぜ・ぜえ	両性	男性のみ
の・のよ	両性	女性のみ
なの・のね・ねえ・わね・わよ	使用されていない	女性のみ

遠藤の比較によると、「浮世風呂」で男女両方とも使っていた文末形「だ、だね、だよ、だわ、だぜなど」は「三四郎」で性別化されることになり、そして「三四郎」で「浮世風呂」にはない女性の登場人物だけが用いている「女ことば」とほぼ同じような文末形「なの、のね、ねえ、わね、わよ」が使用されている（中村, 2001, pp.208-209）。

ここで重要なのは、小説の中の登場人物の会話の特徴は小説家個人の自作ではなく、鏡のように各時代の社会と政治を反映されたものであるということだ（Inoue, 1994）。

しかしながら、日本語における性差を理解するため、明治時代に起きた「言文一致」という言語革命を知る必要がある。

実は、江戸時代の終わり頃まで日本は全国で共通している言語がなかった。日本人はそれぞれの地域の方言を使い、話していた。そして日本が開国したところで明治時代が始まった。新しく開国した日本に欧米の国々から入ってきた技術、イデオロギー、知識などを全国に普及させるためには、共通言語を作る必要が生じた。そのため、明治時代には「言文一致」という話し言葉と書き言葉を一致する運動が行った。結果的に東京語をもとにした標準語が作られ、日本語は「国語」になった。しかし、標準語と共に、日本語は「女ことば」と「男ことば」に区別された（中村, 2012）。

その理由は、多くの言文一致主義者が良妻賢母というイデオロギーを支持していたということである。つまり、言文一致主義者は妻賢母の主唱者を支持し、日本人の話し手に性によって異なる言葉づかい強制していた。そして、その区別された言葉づかいを進めるため、言文一致の運動者は「いらつめ」という雑誌を刊行した。「いらつめ」とは「日本的な温良優雅な淑女」という意味である。従って、この雑誌の発行趣旨は良妻賢母のイデオロギーを取り立てることにあった（中村, 2012, pp.77-80）。

このようにして、次のような結論に達する。「女ことば」と「男ことば」は時間と歴史の流れから成立したのではなく、標準語と同時に現れたものである。男女語の区別は性役割に関係あり、良妻賢母のイデオロギーを支持した言文一致運動者に作られたものである (Ueno, 2017)。「女ことば」という概念が標準語の成立と政府主導の良妻賢母教育と同時期に現れた (Inoue, 1994)。

2. 3 日本語は中性化になっているのか

ただし、20世紀の後半から男女語使用の変化について様々な報告があった。

最初のところは、若者に女ことばや男ことばを使う場合について調査されたり、「わ・かしら」のような文末形について研究を行われたりした。そして、その研究や調査には男女語の使用者（特に女性）の数が徐々に減少するという予想外の結果が出た (三井, 1992; Okamoto, 1995)。

しかし、リサーチの参加者はみな若い世代の人ではなかった。Matsumoto は上位中産階級の30-40代の主婦の言語使用に関する研究をした。その社会集団に所属している女性の言葉づかいは「女らしい」イメージがある。一方で、松本は世間周知に対して異なる結果に達した。その結果によると、30-40代の主婦の中でも、女ことばを使う人は半分しかいないという事実が明らかになった (Matsumoto, 2002)。

つまり、松本の研究は年齢が上がるほど、言語に性差が表すというステレオタイプを反している。

または、他の言語学者は仕事対言語使用の関係も検査した。高崎の研究は学歴・職業によって女性の言葉づかいが異なっていることを示している。そのように、大学生より、主婦の方が女ことばを使い、そして事務員より専門家や自営業者の方が女性語を避けている (高崎, 1993)。

小林美恵子の「世代と女性語—若い世代の言葉の『中性化』について」という研究では初めて「日本語が中性化になっている」という結論が出た。小林は三世代の家庭内外の男女の文末形を調査し、二十代の女性の言葉づかいは「中性化」していることを論じた (小林, 1993)。

前に行った研究も男女語の放棄を示しているが、小林は初めて日本語に現れた新たな傾向に「中性化」という名前を付けた。中性化とは日本語が中立し、性別語が無くなっていくという傾向である。そして、1994年に出た丹羽の研究も「中性化」の理論を強調している。

丹羽は愛知県瀬戸市の中学生の語彙を調査した。その調査の結論は「中学生は伝統的な方言形、新しい語形、共通語形などが混じった、一つの中学生方言あるいは若年層共通語を話している。」ということである。(丹羽, 1994, p.69)。

次いで、丹羽は中学生と同じ地域に住んでいる成人の言語使用を比較した。そして、成人の言葉づかいの方が男女差が小さかった。また、その中学生が高校三年生になっ

たときに、再び語彙使用を比較し、実際のところ四年間の中で男女差が更に小さくなったことを明らかにしている（丹羽, 1994）。

丹羽（1994）は自分の研究で「中性化」という傾向について何も書いていない。しかし、丹羽の「若年層共通語」の研究も小林の「中性化」の検査も非常に似ていると考える。その理由は、年齢集団や研究方法が異なっているにもかかわらず、丹羽も小林もそれぞれの研究で同じような結果に達するからである。その結果は現代の女性の言葉づかいは徐々に変更していくということである。

先行研究には多様な年齢集団の言語使用で「中性化」の傾向が見られている。一方、多様な年齢集団で行った研究にも関わらず、「大学生」という集団の語彙使用に関するリサーチは非常に少ない。筆者は大学生はが男女語の研究のに大事な社会集団だと考えている。大学生は子供の世界から離れ、大人の世界に入りつつある。ある意味で、大学生は日本語の前途を作っていると考ええる。

または、多くの研究は女性の言葉づかいだけを注目している。ただし、男性の言葉づかいについて同じような研究は少ない。しかし、女性の日本語は「中性化」していると言っても、日本語自体には同じ傾向が見られるかどうかははっきり言えないのである。男性の言葉づかいと女性の言葉づかいを比較しないと、現在の日本語の状態は分からないと考える。

そのため、筆者は大学生という社会集団の語彙使用を検査し、男女の日本語には中性化が現れているのかを調べる。

3. 研究方法について

「中性化」という言葉を初めて使われた丹羽の研究から約 25 年経った。その間、若者の日本語はどのように変わったのだろうか。または、現在の日本語に「中性化」という傾向が続いているのだろうか。その問いを答えるために、筆者は 4 人の秋田大学生に日常会話を録音してもらった。会話の話題は自由にした。または、会話データをとるために参加者から許可をもらった。

資料 1 同意書

私は秋田大学の留学生です。現在、文部科学省の「日研生」というプログラムに参加し、日本語・日本文化に関する論文を書いています。その論文のテーマは「中性化」です。今の段階、日本人の大学生の言葉づかいについて研究を行います。男女の会話を分析する方法を取っているため、分析するための会話データ、つまり「自然会話」、が必要となっています。つきましては、皆様にそのデータ収集にご協力をお願いしたいと思っております。

女性と男性の会話を録音し、文字起こしをしたものをもとに研究に踏み出したいと思っておりますので、録音/文字化に同意した上でのご参加をお願いいたします。なお、この録音、会話データ、文字化にした資料を論文以外の目的で使わないことを約束します。または、プライバシーを守るために、ご参加に頂いた皆様の名前や司法を書かないことを約束します。

ご協力をお願いします。

その実験に参加してもらった四人は二十歳の頃の大学生である。二人は女性で、そしてもう二人は男性である。女性は秋田県と山形県の出身で、男性は秋田県と千葉県出身である。そのようにして、四人の中で、三人は東北の人である。

その四人を二つのグループに分け、女性会話と男性会話を記録した。四人を男性と女性同士に分けた理由は、会話データを比較するためである。プライバシーを守るために、筆者は実験の参加者の名前と会話に出た実験に無関係の方々の名前を言わないことにした。その代わりに、参加者のことを「Y」（女性、秋田出身）「H」（女性、山形出身）「T」（男性、千葉出身）「K」（男性、秋田出身）と呼ぶことにした。

録音の後で参加者それぞれにフォローアップインタビューもした。フォローアップインタビューの質問は主に言葉づかい、方言知識、または一人称代名詞の選び方についてだった。全ての情報をメモし、分析のために使う。

女性の会話を平成 30 年 7 月 2 日午前 11 時に秋田大学の図書館で録音した。そして、男性の会話を平成 30 年 7 月 8 日午前 10 時に秋田大学の図書館で録音した。フォローアップインタビューはそれぞれの録音の後で行った。

丹羽（1994）は自分の研究で次のような結論に達した。その結論は「中学生は伝統的な方言形、新しい語形、共通語形などが混じった、一つの中学生方言あるいは若年

層共通語を話している。」ということである（丹羽, 1994, p.69）。つまり、丹羽の研究によると、若者は男女語ではなく、方言や流行語が混じった新しい言語形を話している。

それで、筆者は研究結果を分析するために、その結果を二つのカテゴリーに分けて述べる。一つは、現代の日本語はどのように中性化が現れているのか。そして、もう一つは、若者が使っている日本語でどのような男女語の跡が残されているのか。

3. 1 現代の日本語はどのように中性化になっているのか

現代の日本語はどのように中性化が現れているのかを観察するため、丹羽の研究に従い実験の結果を「伝統的な方言形」、「新しい語形」、「共通語形」さらに分けて述べる。

「伝統的な方言形」とは、ある地域で使われている方言ということである。例えば、秋田県の伝統的な方言形は秋田弁になる。

「新しい語形」は若者が使っている言葉である。要するに、新しい語形は「スラング」に似ているものであり、若者言葉や流行語とも言える。

「共通語形」は全国に使われている言葉、または表現である。元々共通語は表現であり、一般にされたため全国に広がり、標準語と共に使われる。

3. 1. 1 伝統的な方言形

以上のカテゴリーの中で、伝統的な方言の使用は一番少なかった。その理由は、二つがあると考えられる。一つ目は、目の前にボイスレコーダーがあったため、参加者はあくまでも自然に話せなかったかもしれない。そして二つ目は、筆者は外国人であり、実験の参加者は標準語を使えるようにしたのであるからだ。しかし、少なくとも会話のデータで伝統的な方言の例が二つあった。それは、東北方言と秋田弁だった。

例1 女性会話

H: そう、これイタリアの (Y: うん) アドリア海らしい。

Y: へええ!

H: これ行きたい、すごい! こんなところあるって?

Y: んだからね!

H: お伽話じゃん!

Y: それな!

その例で秋田出身のYが言った「んだからね」は秋田県でよく使う表現である。「んだからね」は文句をいうことではなく、「そうですね」、「そうだね」とほぼ同じ意味である。または、強い同意を表すときにも使う（佐藤, 2009, p. 49）。フォローアッ

インタビューで理由について聞かれたとき、Yは「Hは山形の人だから、うちはよく秋田弁使う」と言った。YとHはお互い東北の人であり、同じ地域で育てられたため会話の中で東北方言、または山形弁と秋田弁を使うことが多いと考える。

例2 男性会話

K: [...] いつも、んだっけ、お前バイトで俺が、、ん？寝てる時か？

T: そうそうそう

K: あのとき俺に鍵を置いて、お前鍵閉めないで出てくもんね！

T: 閉めないで出てくる。

K: んだ、んだよね。

例2でYのように、秋田出身のKは東北地方全体の特徴的である「んだ」という表現を使った。「んだ」は標準語の「そうだね」と同じ意味を持っている。そして、「そうだね」と同じように、「んだ」も同意を示すときに使用している（藤原, 1997, p. 667）。または、フォローアップインタビューで二人に「Kは話しているとき、秋田弁を使いますか？」と聞いたとき、お互いは賛成した。

録音した会話で伝統的な方言はほとんど使われていなかったが、二つの例から次のようなことが明らかになる。伝統的な方言形は友達や同じ地域に住んでいる人たちの会話の中で使うことが一番多い。一方、育てた地域が違う場合は、信頼感が必要となる。または、フォローアップインタビューで集めた意見から若者が恥じずに伝統的な方言を使用していることが明らかになる。

3. 1. 2 新しい語形

丹羽の理論によれば、「中性化」の最も大事な一部は新しい語形 — つまり、流行語なのである。四人の参加者も会話で流行語や若者言葉など多く使っていた。前述のように、「新しい語形」は若者が使っている言葉である。要するに、新しい語形は若者言葉や流行語とも言える。

例3 女性会話

Y: でもいいじゃん、留学に行けば！遊べるよ。

H: 私[は]なんかそういう気分なくなっちゃった。

Y: え、マジで？

H: なんかもじめに生きようと思ってる。

Y: マジで??

H: まじめに別にいいんじゃないかなと思って。

その抜粋には二人の女性は H のヨーロッパ留学について話し合っている。そこには、H も Y も様々な流行語を使う。例えば、H は真面目に勉強したいという気持ちを表すとき、若者の「なんか」という口癖を使用した。そして Y は「マジで」を使い、H の発言に反応した。その二つの若者言葉が口癖であり、無意識的使うことが多いと言える。フォローアップインタビューでも同じことを言われた。

例 4 男性会話

T: そう。中国語全くわかんないからね、でも何だかいたらあの人たちも英語ちょっと喋れるから、

K: マジ?? ちょっと喋れるんだよ、やっぱ。

T: なんか、軽い、

K: 会話?

T: ワン、ツーぐらいじゃない。

K: あ、マジで? 確かに。

T: ぶっちゃけ、買い物なんて、

そこには二人の男性はアルバイトに来ている外国人のお客さんについて話していた。それを見ると、男性も女性と同じように「マジで」や「なんか」のような若者言葉を利用し、会話することが明らかになる。そして、女性会話に出ていなかった「ぶっちゃけ」という若者言葉もあった。

「マジで」は乱暴で汚い言葉のため、使わない方がいいという意見を何回も聞いた筆者は、女性の会話にはあまり利用されないことばだと考えていたが、女性も男性も自由に使われている傾向が見られた。

例 5 女性会話

H: 後採血もした。

Y: やばい!

H: そう、穴を二つ開けて、

Y: やばくない? 今大丈夫?

H: 今はね、治った。

その例には、Y と H は H が風邪をひいてしまったことについて話している。そこに使われた「やばい」という流行語は女子高生のため全国に広がり、現在には性別に関わらず使われている。最も興味深いのは、女子高生自体は「やばい」だけではなく、多

くの流行語を発明している。それで、現代の日本語は大きな影響を与えているのではないかと考える。

例6 男性会話

K: うちの店が外国人来たらヤバーってマジで。三日連間外国人来てて、ヤバって思っ
て、、死ぬかと思った本当に、喋れないし、、

T: 何、何聞こえてる?、、

K: 何を言ってるのかわからないし、、しかも、カウンター座っちゃった、その人。俺
カウンターでドリンク作っててさ、俺にめっちゃ話かけられたんだけどさ、わかんね
えんだよ、マジで。途中でなんか本当なんかわかんすぎて、イライラしてきて

(T: うん)、メモ帳出して、筆談し始めて、、

そして、比較として男性会話の抜粋を見れば、男性も普通に「やばい」や「マジで」
を使っていることが見られる。前述のように、「やばい」は女子高生に作られた単語
にしても、現在性別に関わらず全国に流行している。

例7 女性会話

H: お伽話じゃん!

Y: それな!

H: 行きたい!

例8 男性会話

T: それ、バイト行って、話したら、もう全員にネタにされて、多分明日行ったらね、
ずっと、、ネタにされる。

最後に、女性の会話に使われた「それな」や男性の会話であった「ネタにする」とい
う表現も現在の若者の中で人気であり、日常会話や同じ年の会話でよく聞こえる。

前述のように、男性も女性も会話の中で流行語や若者言葉、つまり、「新しい語形」、
を積極的に使うことが明らかになる。その若者言葉は多様であり、様々な場面で使わ
れている。

3. 1. 3 共通語形

しかし、中性化は新しい語形だけではなく、共通語の使用にもあらわれている。みん
な最近共通語になっている関西弁の多様な文末形を使用し、話していた。

例9 女性会話

Y: うちさ、何だかなんかさ、日本のディズニーランド行ったけどさ (H: うん)、
そこまで楽しくなかった。

H: あ、じゃ、無理やな。なんでだ？

Y: 普通にさ、マレーシアの方が楽しかった。

H: それは楽しいわ！

例 9 には H と Y はディズに一ランドについて話した。H は反応するとき、語尾の「～やな」や「～わ」を利用した。「～や」は関西弁で標準語の「～です」、「～だ」と同じ意味を持ち、同じときに使える。一方、「～わ」は意味があまりにもなく、文末形として使われている。関西弁の「～わ」のイントネーションは下がっていく。両方とも関西弁の表現で、東北にはない文末形である。一方、現在は共通語になり、地域や性別に関わらず使われている（藤原, 1997, p. 594; 藤原, 2002, p. 42-52）。

または、男性の会話にも関西弁がよく使われた。

例 10 男性会話

T: そう、俺ね、一回、一回は観光で、二回はね、なんかね、豚、養豚場へ行って、

K: 意味わかんない

T: 1 カ月、1 カ月じゃないわ。1 週間 (K: あ) 豚育ててたんだよね。

その例には K と T は T の北海道旅行体験について話していた。T は北海道にいた期間を間違えた。そして、その間違えを言い直すために、関西弁の「～わ」という語尾を使った（藤原, 2002, p. 42-52）。

例 11 男性会話

T: そうそうそう。なんかもう、豚を普通に泥で遊ばせて育てるみたいなの、

K: うまいの、その豚？

T: うまい！めっちゃ食った。1 週間ぐらい、だって毎日豚食べてた。

例 12 女性会話

H: あああー Y 泣いた昨日？

Y: 昨日泣いた。

H: もう目が腫れてるもん。

Y: そーう、めっちゃ泣いた。また去年の秋ぐらいに

H: うわあー！同じこと繰り返す！

「めっちゃ」も関西弁の一つであり、標準語の「とても」、「大変」、「非常に」と同じ意味を持っている。若者の言葉づかいには「めっちゃ」は流行し、大勢の人に使われている。例えとすれば、今の段階は「とても」より「めっちゃ」の方が一般化にされ、若者同士の会話によく使用している。そして、筆者が録音した会話の中で女性も男性も「めっちゃ」を多様に使っていた（佐藤, 2009, p. 225）。

関西弁を使う理由について聞いたとき、「私たちが使っている関西弁は本当の関西弁じゃないけど、たまに使う」や「周りの人がみんな使っているから、移ってしまった」ということ言われた。そして、「関西弁を使っていることを認識しますか？」と質問したとき、「はい、関西弁を使っているのを知っている」と答えられた。一方、「めっちゃ」の使い方について聞かれたとき、その理由は「『とても』とかは感情がないから使う」や「『めっちゃ』の方が面白いから」ということだった。

関西弁と共に男女の会話には神奈川弁の「～じゃん」という語尾も積極的に利用されていた。

例 13 女性会話

Y: そう、、なんかさ、最近うちはね (H: うん) 友達と (H: うん) その恋人っていうなんか分かれてるの。友達を取っちゃおうと (H: うん)、恋人が、

H: 疎かになる。

Y: なんか恋人といるのも、、[彼氏]はすごいいい人だからいいんだけど (H: うん)、なんかね、友達といると楽しいじゃん (H: うん)。友達ってさ絶対さ友達との関係ってずっとじゃん (H: うんうん)。永遠でしょう (H: うんうん)? 喧嘩とかしない限り (H: うんうんうん)。でもさ、恋人の場合は結婚しないとどうせ分かれるじゃん (H: うん)。だったらずっと友達を取りたいなと思って (H: そう)、最近冷たかったんだ、うちは[彼氏]に。そうしたら怒っちゃって、

例 14 男性会話

T: [...] そう、なくて、また家帰って、探したら、鍵冷蔵庫の中あって、

K: 意味わかんねえ! あ、ま、え?

T: 冷蔵庫の上に置いてんじゃん?

K: あれか? (T: そう) あそこか?

T: 冷蔵庫扉開けて、多分落ちて、

K: きんきんに冷えてた?

「じゃん」は文末によくつく語尾であり、特別な意味とかは持っていないが「そうではないか」という表現に似ていると言える。会話の中で話の内容は認識されることを

確認するために使う（佐藤, 2009, p. 117）。「じゃん」は神奈川県に限らず、全国に広がり、現在は共通語として扱われている。しかし、「じゃん」は神奈川県であるのみならず方言であることを知っている人は少ない。この実験に参加した四人に「なんで『じゃん』を使っていますか？」と聞いたとき、関西弁と異なり、理由として「無意識に使う」や「みんなが使っているから」のようなことを言われた。または、「『じゃん』はどこの方言ですか？」と聞いたら、「知らない」や「方言じゃないでしょう」という答えがきた。

例 15 女性会話

H: これは境界っしょ多分。

Y: ええ、本当だ！

H: そう書いてあるよね (Y: うん)。そして、きれいな海、そしてこの光の感じロウソクみたいな、

その抜粋に H が使った「～っしょ」は北海道弁である。意味は「～でしょう」や「～よね」と同じであり、全国に簡単に通じる（井上 & 鎌水, 2002, p. 147）。しかし、H は「～っしょ」は北海道弁であることを知らなくて、「みんなが使ってるし、方言じゃないと思う」と言った。

3. 2 若者が使っている日本語でどのような男女語の跡が残されている

3. 2. 1 一人称代名詞の使い方

会話を録音していたとき、筆者は一人称代名詞の使い方に注目した。四人の中で、みんな性別に適切な一人称代名詞を利用した。

例 16 女性会話

Y: 味は嫌だ、うちこれやりたい、ココナッツミルクの (H: うん) 料理をしたい。シチューとか。

H: え、ちょっとやって！

Y: え、めっちゃ美味しいよ、ココナッツミルクの、

Y の「うち」という一人称代名詞の使い方を注目した。元々は、「うち」は鹿児島弁の言葉であった。1994 年ぐらいに西日本に來られ、関西弁の一部になった。しかし、前述のように、現在のところ、関西弁は流行し、全国に使われるようになった。

「うち」という一人称代名詞も流行語の一つとして広がり、日本人の女子中・高生に利用された（井上 & 鎌水, 2002, p. 27）。

「うち」は伝統的な女ことばではないが、現代の女性語として扱われている。または、「うち」を使う男性はほとんどいない。従って、「うち」は新たな女ことばになって

いると考えている。Yに「なんで自分のことを『うち』と呼びますか？」と質問した。そして、Yは「自分のことを『私』と呼ぶのはあまり好きじゃない、、『うち』の方が言いやすい」と答えた。

例 17 男性会話

T: でも俺はいつも閉めないじゃ？

K: え、閉め、え??

T: いつも俺閉めないしから。

K: え、閉めておけ！俺はいつも閉めてるよ。

または、男性の二人も男ことばの「俺」という一人称代名詞を使用した。男性に「なんで自分のことを『私』と呼びませんか？」と聞き、一人は「『私』は女ことばだから、使う気がない」と答えた。女性に同じ質問したら、似ているような返事がきた。その答えは「それは男の子が使う言葉だから、私は使わないけど、たまにアニメが好きな女の子の中で自分のことを『俺』とか呼ぶ人がいる」ということだった。

それで、一人称代名詞の使い方にはあまりにも変化がなく、代名詞の選び方は男女語に強く基づいていると考える。

3. 2. 2 男性会話に見られる男ことばの使用

例 17 男性会話

T: なんかもう、豚を普通に泥で遊ばせて育てるみたいなの、

K: うまいの、その豚？

T: うまい！めっちゃ食った。1週間ぐらい、だって毎日豚食べてた。

K: 俺なんか悲しい気持ちになってきた、育てながら、あの、その、そいつらの先輩を食うっていう？

T: いや、でも何も思わん。だって、めっちゃ臭いもん。

K: ひでえよ、お前。

しかし、女ことばが使われていないと言っても、男性はまだ男ことばを使用していることは事実である。「うまい」などの言葉は男にも女性にも利用されているが、「食う」の場合は、大勢の女性はまだ「食べる」という動詞を使う。または、男性も両方とも使えるが、録音の文字化にした書類を見れば、「食う」の方が多く使われた。一方、女性の会話には「うまい」は一つもなく、食べ物の味を表すとき「美味しい」だけ用いられた。しかし、それは一般的に女性が「うまい」という言葉を使わないと

いうことを支援していない。その会話の中で使うことがなかったということを示しているだけである。

例 18 男性会話

K：話強請らねえぞ。さっき話あったじゃん？

T：え、北海道？

K：なんか普通に話してたよ、なんかいろいろ。

または、男ことばの特徴的な「～ぞ」という文末形もあった。比較として、女性の会話には女ことばの文末形が一つもなかった。しかし、女性の会話にも男ことばを使う場合もあった。その傾向は非常に興味深いと考える。それで、女性でも使えるようになった「男ことば」について述べる。

3. 2. 3 女性会話における男ことばの使い方

明治以下の時代には男ことばや女ことばの使い方は話し手のジェンダーによってはっきり分けられていた。だが、

例 19 女性会話

Y：なんか最近はさ、ヨーグルトとかゼリーとかで済ませちゃう。

H：だめだよ！

Y：馬鹿だよな。

H：だめだよ！！ちょっと、ちゃんと食べな！

Y：なんかバイト終わったらめんどくせーなと思って、コンビニ行って、ゼリー買って、これでいいかみたいな

H：どうすればいいんだろうね？

その例にはYとHは晩ご飯を話題にして、話していた。Yが使った「めんどくせーな」もHが言った「だろう」も前には「荒くて、女らしくない言葉」だと思われ、女性に使われていなかった。しかし、現代の女性はそのようなバイアスを捨て、自由に会話で使用しているようである。

例 20 女性会話

Y：歓迎してくれたの？

H：そう、ありがたしー

Y：すげえ

H：そうそうそう。

例 21 女性会話

H：めっちゃおにぎり作ってきたんじゃない？

Y：毎日おにぎり。

H：でっかいやつを。

Y：そう、最近は全然作っていない。

その二つの例には使われた「すげえ」や「でっかい」は男ことばだった。その理由は、そのような言い方は乱暴であり、女らしくないと思われたから。しかし、前にあげられた「だろう」や「すげえ」と同じく偏見なく使えるようになった。

しかし、女性が前述のように、男ことばを使えるようになったとしても、男性には逆に女ことばを使用する傾向が見られていない。一人称代名詞の使い方について聞いたときも、男ことばや女ことばの意識が強くて、自分の性別に異なる一人称代名詞を伝えることに圧倒的な違和感に注目した。ただし、ある団体の言葉づかいを有利にし、そして、他の団体の言葉づかいにそれなりの違和感があれば、日本語は本当に中性化になっているのだろうか。

4. 結論

日本語の男女語の歴史は非常に短命である。明治時代に社会政策として現れ、平成時代まではだんだん使えなくなり、そして現在の若者の会話に全く利用されていない。その傾向を示している研究が多様であり、間違えなく「女ことば」が使えなくなったことの証拠になっている。しかし、筆者の研究の元になった小林や丹羽の調査のターゲットは女性の言葉づかいだった。または、他の男女語についての研究書の中でも、「女ことば」に関するデータは大量であるが、「男ことば」に関するデータや研究は非常に少ない。確かに、小林と丹羽の結果によると、女性の言葉づかいは中性化になっていることは明らかになるが、日本語自体に同じ傾向が見られるのだろうか。そのアイデアは本論のきっかけになった。

それを試すため、四人の大学生の日常会話データをとり、すべてのデータを丹羽の研究のように「伝統的な方言形」、「新しい語形」、「共通語形」に分けて、男女の言葉づかいを比較した。そして、丹羽の研究の通り、筆者がとったデータからも同じような混じった日本語が見られた。または、女性の会話には一人称代名詞以外には「女ことば」の使用はなかった。

その三つのカテゴリーの中で、「伝統的な方言形」の使用は一番少なかった。筆者はどのようにして伝統的な方言があまり使われていなかったのかを説明するために、次のような理由を考えた。一つ目は、目の前にボイスレコーダーがあったため、参加者にとってはあくまでも自然に話せるのは難しかったかもしれない。そして二つ目は、筆者は外国人のため、実験の参加者はそれを注目し、できるだけ標準語を使えるようにしたのであるからだ。しかし、それに関わらず、秋田弁の「んだからね」と東北方言の「んだ」の使用が見られた。

一方、「新しい語形」の使用は多様だった。筆者は「新しい語形」として会話データから若者言葉や流行語の使用をとり、分析した。そして、男女の言葉づかいで流行語が大量に使われていることが明らかになった。その流行語一つずつ比較し、男性も女性も性別に関わらず、様々な「スラング」の使い方を見られた。

「共通語形」の使用も非常に興味深かった。そこには、参加者は共通語として関西弁、神奈川弁、北海道弁などの様々な地域の方言使っていることが見られた。男女が使われた方言を分析し、フォローアップインタビューで方言知識や使用目的について聞いた。そこで、参加者は神奈川弁や北海道弁の起因を知らないことが明らかになった。一方、関西弁の使い方は意識的であった。

しかし、それ以上には、もう一つの傾向に注目した。それは、女性も男性も圧倒的に「男ことば」を使うことである。最も興味深かいのは、若い女性が「女ことば」を使わないことに対して、男性はまだ「男ことば」の使用を続けている。前世代で女性の会話で全く使われていなかった「うまい」や「でっかい」のような形容詞は現在男女両方に利用されている。

前に述べたように、女性が男ことばを使えるようになったとしても、男性には逆に女ことばを使用する傾向が見られていない。一人称代名詞の使い方について聞いたときも、男ことばや女ことばの意識が強くて、自分の性別に異なる一人称代名詞を使えることに圧倒的な違和感に注目した。

確かに、先行研究の結果の通り、女性の言葉づかいは前世代から非常に変更してきたと言える。しかし、男性の言葉づかいはあまりにも変わっていない。寧ろ、女性の方が「男ことば」を利用するようになっていく傾向が見られている。「中性化」とは性差のない言葉づかいのことである。ただし、ある団体の言葉づかいを有利にし、そして、他の団体の言葉づかいにそれなりの違和感があれば、日本語は本当に中性化になっているのだろうか。

文献

- 井上史雄 & 鎌水兼貴 (著) (2002). 『辞典「新しい日本語」』. 東京: 東洋書林.
- 遠藤織枝 (1997). 『女のことばの文化史』. 学陽書房.
- 川口章 (2013). 『日本のジェンダーを考える』. 東京: 有斐閣.
- 小林美恵子 (1993). 『世代と女性語—若い世代の言葉の「中性化」について』. 日本語学, 12(5), 181-192.
- 佐藤亮一 (編) (2009). 『全国方言辞典：都道府県別』. 東京: 三省堂.
- 高崎みどり (1993). 『女性のことばと階層』. 日本語学, 12 (5), 169-180.
- 中村桃子(2001). 『ことばとジェンダー』. 東京: 勁草書房.
- 中村桃子(2012). 『女ことばと日本語』. 東京: 岩波書店.
- 丹羽一彌 (1994). 『女子中学生の日常使用語』. 日本語学, 13(10), 63-71.
- 藤原与一 (編) (1997). 『日本語方言辞典「昭和・平成の生活語」』 (下巻). 東京, 日本: 東京堂出版.
- 藤原与一 (編) (2002). 『日本語方言辞書〈別巻〉：「全国方言会話集成」』. 東京, 日本: 東京堂出版.
- 三井昭子 (1992). 『話し言葉の世代差—終助詞と副詞を中心に』. ことば, 13, 98-104.
- Haas, A. (1979). The acquisition of genderlect. In J. Orasanu, L. L. Adler, & M. Slater (Eds.), *Language, sex and gender: Does la différence make a difference?* (pp. 101-113). New York, NY: New York Academy of Sciences.
- Ide, S., & McGloin, N. H. (Eds.). (1991). *Aspects of Japanese women's language*. Tokyo: Kurosio.
- Inoue, M. (2002). Gender, Language, and Modernity: Toward an Effective History of Japanese Women's Language. *American Ethnologist*, 29(2), 492-422. Retrieved from <https://doi.org/10.1525/ae.2002.29.2.392>
- Lakoff, R. T. (1976). *Language and woman's place*. New York, NY: Octagon Books.

Maltz, D. N., & Borker, R. A. (1982). A cultural approach to male–female miscommunication. In J. J. Gumperz (Ed.), *Language and social identity* (pp. 196-216). Cambridge: Cambridge University Press.

Matsumoto, Y. (2002). Gender Identity and the Presentation of Self in Japanese. In S. Benor, M. Rose, D. Sharma, J. Sweetland, & Q. Zhang (Eds.), *Gendered practices in language*. Stanford, CA: CSLI.

Okamoto, S. (1995). "Tasteless" Japanese: Less "Feminine" Speech Among Young Japanese Women. In K. Hall (Ed.), *Gender articulated: Language and the socially constructed self* (pp. 297-328). New York: Routledge.

Tannen, D. (1990). *You just don't understand*. New York, NY: William Morrow.

Ueno, J. (2017). Gender Difference in Japanese Conversation. Retrieved from <https://web.uri.edu/iaics/files/08-Junko-Ueno.pdf>

資料1 同意書

「ご参加のお願い」

私は秋田大学の留学生です。現在、文部科学省の「日研生」というプログラムに参加し、日本語・日本文化に関する論文を書いています。その論文のテーマは「中性化」です。今の段階、日本人の大学生の言葉づかいについて研究を行います。男女の会話を分析する方法を取っているため、分析するための会話データ、つまり「自然会話」、が必要となっています。つきましては、皆様にそのデータ収集にご協力をお願いしたいと思っております。

女性と男性の会話を録音し、文字起こしをしたものをもとに研究に踏み出したいと思っておりますので、録音/文字化に同意した上でのご参加をお願いいたします。なお、この録音、会話データ、文字化した資料を論文以外の目的で使わないことを約束します。または、プライバシーを守るために、ご参加に頂いた皆様の名前や司法を書かないことを約束します。

ご協力をお願いします。

日付_____

お名前_____

サイン_____

資料2 女性の会話（平成30年7月2日午前11時）

Yは秋田出身

Hは山形出身

Y：おはよう、Hちゃん。

H：おはよう、Y。

Y：今日は暑いね。

H：暑いよね。

Y：暑いね。

H：うん。

Y：どこへ行ってたんだっけ？名古屋？

H：あ、そうね。行けなかったよ、熱が出たから。

Y：あ、そういうこと？

H：うん、〇〇先生にダメって言われた。

Y：へええ、、あ、じゃ〇〇と〇〇だけっていうこと？

H：そう、〇〇先生と三人だけ。

Y：あ、そうだったんだ！ずっと行ったと思っていた。

H：ずっとベッドで寝てた。

Y：へええ、お疲れ。

H：薬を飲んでた。

Y：やばいね。

H：後採血もした。

Y：やばーい。

H：そう、穴を二つ開けて、、

Y：やばくない？今大丈夫？

H：今はね、治った。

Y：そっか

H：お父さんも来てくれて

Y：えええええ

H：そう、家から。

Y：歓迎してくれたの？

H：そう、ありがたしー

Y：すげえ

H：そうそうそう。

Y：よかったね。

H：深刻な話していいの？

Y：深刻な話していい、して！

H：私はないよ、別に。

Y：じゃ、私はある！

H：どうぞ。

Y：昨日の夜眠れなかった。その理由が (H：うん)、彼氏と喧嘩したから。

H：あぁー

Y：そう、、なんかさ、最近うちはね (H：うん) 友達と (H：うん) その恋人っていうなんか分かれてるの。友達を取っちゃうと (H：うん)、恋人が、、

H：疎かになる。

Y：疎かになる。

H：うん。

Y：なんか恋人といるのも、、[彼氏]はすごくいい人だからいいんだけど (H：うん)、なんかね、友達といると楽しいじゃん (H：うん)。友達って絶対さ友達との関係ってずっとじゃん (H：うんうん)。永遠でしょう (H：うんうん)? 喧嘩とかしない限り (H：うんうんうん)。でもさ、恋人の場合は結婚しないとどうせ分かれるじゃん (H：うん)。だったらずっと友達を取りたいなと思って (H：そう)、最近冷たかったんだ、うちは[彼氏]に。そうしたら怒っちゃって、、

H：それで怒っちゃったの？

Y：そう

H：傷ついていたから？

Y：そうそうそう

H：ま、傷つくよね

Y：でも結局、なんかね彼は寛大なの！なんか・・・ なんか、「別に友達と遊んでもいいよ」みたいなのを言うの

H：おおー

Y：「絶対大丈夫だから」って

H：でも、怒ったでしょう？

Y：うん。それはうちは[彼氏]に対する態度が冷たかったから。

H：ああー Y 泣いた昨日？

Y：昨日泣いた。

H：もう目が腫れてるもん。

Y：そーう、めっちゃ泣いた。また去年の秋ぐらいに

H：うわあー！同じこと繰り返す！

Y：うん、同じこと繰り返してる。

H：ま、内容は違うけどね。

Y：そう。

H：内容は違う、、

Y：違うっていうかだけど似てるようなもんだけど。

H：似ている？似ているよね (Y：そう)。友情を、、

Y：そうそうそう！友情を取るか、恋人を取るかみたいな・・・

H：きついね。

Y：大変なんだよ！それをずっと言いたかったよ。

H：私にはない悩みなんだよ。

Y：いやいやいや

H：自由、自由

Y: でもいいじゃん、留学に行けば！遊べるよ。

H: 私なんかそういう気分なくなっちゃった。

Y: え、マジで？

H: なんかもじめに生きようと思ってる。

Y: マジで??

H: まじめに別にいいんじゃないかなと思って。

Y: んんん、やっぱそうだね。いいな、留学。さ、フランスに行くんでしょう？

H: フランスとイギリスとイタリアと[国の名前]は行きたい。

Y: えええー いいな！

H: 行きたい、行きたい！

Y: 行きたい！イタリアに行けば、あれじゃ、何だっけ、〇〇いるじゃん？

H: んんん、、、

Y: 〇〇いるよ。そうでもない？

H: 別にあまり友達じゃなかったから。普通に知り合い。友達の定義よくわかんないから。

Y: 友達が定義やって、難しい。

H: そっか。

Y: 友達の定義。

H: そうそう。友達の定義はよくわかんない。

Y: いいな、でもフィンランドへ行きたい！

H: 来てよ。

Y: ていうか、フランスへ行きたい！フランスへ行きたい。

H: そう、私は〇〇先生に (Y: うん) フランスのパン屋さんを教えてもらうかなと思ってる。

Y: いいじゃん、いいじゃん！

H: 知ってるかな。

Y: いいと思う。〇〇先生は絶対嬉しいと思う。パン屋さん知ってるよ。

H: そうなの？

Y: うん、言ってたもん、前。

H: 知ってるんだ！

Y: そう。

H: 聞いてみよう。後おすすめスポット的な。

Y: いいんじゃない？でも観光に向かないとか言ってたよな気がする。

H: え、マジで？

Y: うん、そうでもないかも。でも一回ぐらい言っていていいよ。

H: ま、そうだね。一回ぐらい。イタリヤすごい行きたい。きれいなところへ行って、

Y: 何だっけ、青の何とかっていうところへ行きたい。

H: 青の、

Y: 洞窟みたいなところ。

H: あああー！

Y: 洞窟じゃなくて、わかんない、もう忘れちゃった。

H: 光が差し込むところ？

Y: なんか青いところ。

H: 海が？水が多いということ？

Y: いや、わかんない。

H: え、青いところ？

Y: うん、青いところ、そう。

H: 私はすげえきれいなところを見つけたのさ、

Y: 何、イタリヤで？

H: イタリヤのなんかパソコンの画面に出てきてね (Y: うん)、[携帯電話で写真を見せる]

Y: ええええ！めっちゃきれいじゃん！

H：きれいでしょう？

Y：なんか映画で出てきそう。

H：そう、これイタリアの (Y：うん) アドリア海らしい。

Y：へええ！

H：これ行きたい、すごい！こんなところあるって？

Y：んだからね！

H：お伽話じゃん！

Y：それな！

H：行きたい！ / Y：やばーい！

H：これは境界っしょ多分。

Y：ええ、本当だ！

H：そう書いてあるよね (Y：うん)。そして、きれいな海、そしてこの光の感じロウソクみたいな、

Y：やば。

H：すーごいきれい。行きたい。

Y：ヴェニスってどこだっけ？ヴェニスはイタリアじゃない？

H：そうなの？

Y：違う、ヴェニス？ヴェニスはどこだか？ヴェニスはめっちゃきれいだよ、なんかさ、普通に街並みがあって (H：うんうん)、あの、何、水っていうより川？

H：海？何？湖？何、何？

Y：あ、イタリアだ、イタリアだ！ほら。ほらほらほら、めっちゃきれいじゃない？これこれこれ！

H：あ、海の街みたいなやつだね！

Y：そうそうそう！行きたい！

H：え、行こうかなー？あ、可愛い、ディズニーランドみたいだよ。

Y：なんか、よくさ、ドラマ (H：うんうん) 出てるもんね

H：なんかテレビでもやってるもんね。

Y: うんうん！いいな！

H: 湖、湖なのかな？何なんだろう？

Y: 何なんだろう？

H: 海じゃない、なんか塩がさ (Y: うん)、なんか引くとなくなるみたいな

Y: へええ！

H: それは年中じゃないんだよね。

Y: へええ！あ、アドリア海、これもだよ！

H: え、ちょっと行ける！

Y: 行けるじゃん！

H: 行けますね。

Y: いいじゃん、やっぱヴェネツィアだ。

H: 一人旅っていうやつ。

Y: 友達作っていけばいいじゃん？

H: イタリア人の人がいれば案内してもらえるよね。

Y: ほら、〇〇いるじゃんか？〇〇に案内してもらってき、運転してもらえば楽じゃない？

H: 運転出来んの？

Y: わかんないけど。いいね、楽しみだね。

H: そうそうそう。

Y: 〇〇もアメリカに行くしね。

H: いいな、アメリカに行きたい。カリフォルニアのディズニーランド、、

Y: うん、行きたい！あでも、うちさ、何だかなんかさ、日本のディズニーランド行っただけどさ (H: うん)、そこまで楽しくなかった。

H: あ、じゃ、無理やな。なんでだ？

Y: 普通にさ、マレーシアの方が楽しかった。

H: それは楽しいわ！

Y: ということ？

H: 夢の、

Y: 夢の国だよ！

H: 夢の国だよな。

H: じゃ、朝ご飯、何食べた？

Y: 食べてない！H 何食べた？

H: 私は朝ご飯の大切さに気付いたんですよ。食べてなかったから熱が出したと思って、

Y: 何食べた、今日？

H: 今日はちゃんと卵とほうれん草と豆と、何豆？

Y: 何の豆？

H: なんか豆。

Y: 知らんわ。

H: その豆と納豆。後、みそ汁。素晴らしいよね！

Y: え、めっちゃすごいね！

H: ちょっと意識しました (Y: やばーい!)。今日だけかもしれないんだけど、ちゃんと食べてきた。

Y: ええ、いいな！ていうか、料理をしたい。

H: してるじゃん！

Y: 最近してない。

H: そう？私はYをおにぎりのイメージがすごい。

Y: そうだね。

H: めっちゃおにぎり作ってきたんじゃない？

Y: 毎日おにぎり。

H: でっかいやつを。

Y: そう、最近は全然作っていない。

H：そっか。めんどくさいよね。

Y：うん。そう、でもさ、作りたい！なんか最近はさ、ヨーグルトとかゼリーとかで済ませちゃう。

H：だめだよ！

Y：馬鹿だよ。

H：だめだよ！！ちょっと、ちゃんと食べな！

Y：なんかバイト終わったらめんどくせーなと思って、コンビニ行って、ゼリー買って、これでいいかみたいな

H：どうすればいいんだろうね？

Y：またトルティーヤもはまってる。

H：あ、いいじゃん？それいいじゃん？

Y：トルティーヤ美味しい！

H：トルティーヤ作ってみれば？

Y：難しくない？

H：私なんかやったら、超まずくなった。

Y：味は嫌だ、うちこれやりたい、ココナッツミルクの (H：うん) 料理をしたい。シチューとか。

H：え、ちょっとやって！

Y：え、めっちゃ美味しいよ、ココナッツミルクの、、

H：え、ちょっとやって！やって！

Y：やってみるか？

H：やって、食べさせて！

Y：わかった。うん、今度やってみる！

H：そう、早く、私はもうすぐいなくなるから、早くやらないと、、

Y：そうだね、わかりました！

資料3 男性の会話（平成30年7月8日午前10時）

Tは千葉出身

Kは秋田出身

T：今日さ、今日ね、日曜日はいつも朝7時から（K：あ）バイトなんだけど（K：あ）、今日10時からだったの（K：お、お）。で、調子に乗って寝てたら[一]軽く（K：あ）遅刻するなって（K：あ）、で、鍵探したら鍵なくて、、（K：あ）ま、とりあえず家の鍵閉めなくてもいいやと思って（K：うん）、バイトに行ったの。そうしたら、、

K：よくなくす。

T：でも俺はいつも閉めないじゃ？

K：え、閉め、え??

T：いつも俺閉めないしから。

K：え、閉めておけ！俺はいつも閉めてるよ。

T：最近閉めてるだけ。前鍵閉めてなかったから、いいかなと思って、閉めなかったの。で、バイト行ったら、バイトの更衣室の鍵（K：あ）、で俺の家の鍵と一緒にしてたの（K：お）。更衣室の中にいつもバイトの制服、エプロンとか、入れてたから洗濯しない、あんまり洗濯しないのだけ（K：ん）。そう、なくて、また家帰って、探したら、鍵冷蔵庫の中あって、、

K：意味わかんねえ！あ、ま、え？

T：冷蔵庫の上に置いてんじゃん？

K：あれか？（T：そう）あそこか？

T：冷蔵庫扉開けて、多分落ちて、、

K：きんきんに冷えてた？

T：そう、きんきんに冷えてた。

K：きんきんに冷えてやがるよお！

T：それ、バイト行って、話したら、もう全員にネタにされて、多分明日行ったらね、ずっと、、ネタにされる。

K：いやじゃない、、あ、あれか、いつも、んだっけ、お前バイトで俺が、、ん？寝てるときか？

T：そうそうそう

K：あのとき俺に鍵を置いて、お前鍵閉めないで出てくもんね！

T：閉めないで出てくる。

K：んだ、んだよね。

T：そうそうそう。だから、もし変な人は言ってきたら、そう殺されている。

K：10時とか11時頃起きて（T：うん）、あ、鍵あると思って（T：そう）、閉めて、帰る。話強請らねえぞ。さっき話あったじゃん？

T：え、北海道？

K：なんか普通に話してたよ、なんかいろいろ。

T：北海道？

K：さっきの話。

T：そう、北海道行くんだよ（K：あ）。うん、だから飛行機取んなきゃいけないんだけど（K：あ）、なんか最近飛行機ってさ、飛行機のチケットって携帯でなんかできるじゃん？

K：あ、できる。

T：携帯ってなんかピーって（K：あ）、俺やり方知らなくて（K：お）、それをなんかさっき調べようとしてて、9月の頭に行くんだけど、

K：早割りがあるよね、飛行機、

T：そうそうそう！だから、今、うん、もうすぐ行っちゃっても良かったんだけど、早めにとった方が、1か月前とか、うん、その方が安いから、どこへ行くのかまだ決めていないんだよね。

K：新千歳でしょう？

T：新千歳空港降りて、札幌に友達いるの。

K：あ、いいじゃん！

T：そうそうそう。同じ高校から、ま、小・中・高一緒の（K：お、へえ）友達がいるから、そいつん家泊まって、4日間ぐらい宿泊費ただで、

K：最高やん。

T：そう旅行しようかなと思ったんだけど、どこへ行けばいいんだろうと思って、どこへ行くの？なんか行くんでしょ？

K：そう、俺らは函館だから、

T：函館？

K：あの、電車つす。

T：電車で行くの？

K：電車つす。

T：じゃ、青函トンネルを通つで、

K：初の北海道新幹線つす。

T：うわ！え、北海道行ったことない？

K：俺行ったことない、北海道。

T：ない？

K：ない。

T：あそこめっちゃね、広い。二回、

K：それは知ってる！見ればわかる。

T：地図を見ればわかるか？

K：圧倒的広さ

T：そう、俺ね、一回、一回は観光で、二回はね、なんかね豚、養豚場へ行って、

K：意味わかんない

T：1ヵ月、1ヵ月じゃないわ。1週間 (K：あ) 豚育ててたんだよね。

K：え、いつそれ？高校？

T：それは中学のときだった。

K：意味わかんねえんだけど、

T：中学の初めに、その養豚場へ行って、なんか知り合いの人がいたの (K：うん)、お父さんの。結構有名で東京とかテレビとか結構出ている人なんだけど、泥豚っていうやつなんだけど、

K：泥豚、

T：そうそうそう。なんかもう、豚を普通に泥で遊ばせて育てるみたいな、

K：うまいの、その豚？

T: うまい! めっちゃ食った。1週間ぐらい、だって毎日豚食べてた。

K: 俺なんか悲しい気持ちになってきた、育てながら、あの、、その、、そいつらの先輩を食うっていう?

T: いや、でも何も思わん。だって、めっちゃ臭いもん。

K: ひでえよ、お前。

T: 育てやったんだけども、本当にマスクしてても、匂いやばいし、、

K: この人ベジタリアンだな。

T: あ、そっか!

K: その人肉食わないもん。餃子半分食わせたらすげえまずそうな顔をした。

T: 魚は?

K: 魚は食える、魚は食える。

T: あああ、、そう、はなまるうどんバイトしてたときも、なんかベジタリアンの人来て、、

K: あ、、え、ある?あ、ま、あるか。

T: 結構、、結構ね外国人の人ね、ベジタリアンって (K: いるんだ、やっぱ!) の人がいるんだけど (K: へええ)、うサラダどんとかあるんだけど、なんかサラダうどんにツナも入ってるし、、

K: あ、ツナもアウトか!

T: でしょう、ツナ!ね、ツナも多分、、魚介系、肉、、魚、肉ダメだと (K: へええ)、、、そう、はなまるうどんの出し、、これ行っていいのかな?わかんないけど。出しとかも魚介系の混ざってるから、、

K: 食えんじゃん?食えんやんけ?

T: そう、だからいつもなんか外国人でベジタリアンの人来たたら、、

K: でもだますしかない?

T: いや、だまさないよ。おろし醤油 (K: あああ!), うどんに大根おろしと醤油かけるだけのやつあるから、醤油はなんか裏見たら (K: お)、出し醤油とかじゃなくて、出し醤油だとなんかいろいろ入ってる、、

K: 出し醤油に入ってる、いろいろ。

T: もう、成分表見たら、はなまるのやつ別に魚のカツオとかそういうのなかったから (K: うん)、おろし醤油いつも出して、、でもなぜかカレー頼む人いるんだよね。

K: カレーって、、あ、アウトだよ、多分。カレーって何入ってる？え、魚じゃないよね？

T: 普通にカレーに肉入ってるよ。

K: あ、そっかそっかそっか！ごろっと入ってるやん！

T: ごろっと入ってるよ！肉と人参とじゃがいもと、、

K: 何を思っていけると思っただろう？

T: そう、なぜかなんかカレーはいけると思っただのか、頼んで、、俺もよくわかんないから、そんなに詳しくないから、あっち英語だしね。

K: あああ、、お前喋れるでしょう、英語？ペラペラやん。

T: ペラペラじゃないよ。普通に「ノーミート」つって、、(K: ノーミート) 「ノーミート」、「ノーフィッシュ」つって、、普通に話すぐらいで。昨日のバイトはね、普通に外国人、、あんま来ない。

K: あんま来ないでしょう、多分あそこ。

T: 来ても、普通に、、

K: うちの店が外国人来たらヤバーってマジで。三日連間外国人来てて、ヤバって思っ
て、、死ぬかと思った本当に、喋れないし、、

T: 何、何聞こえてる？、、

K: 何を言ってるのかわからないし、、しかも、カウンター座っちゃった、その人。俺
カウンターでドリンク作っててさ、俺にめっちゃ話かけられたんだけどさ、わかんね
えんだよ、マジで。途中でなんか本当なんかわかんすぎて、イライラしてきて (T:
うん)、メモ帳出して、筆談し始めて、、

T: 筆談しやってる！あ、そっか。喋ってるとか、、

K: そうそう、聞き取れないから、筆談ならまだわかる、、

T: 聞き取れないからね、うんうんうん、、

K: 筆談だとまだ理解できるからさ、なんか変にもやう。

T: 俺のところ、ポロショコラしか買わないから、外国人。

K: なんで？

T: お土産を買わない。だけ買う (K: うん)。常連の人にはいるんだけど、日本語喋れる人 (K: あ、そうなの?)、なんかね、めっちゃ可愛い。なんかありがとうって。

K: 女の子? いいな、

T: ありがとう、お母さんだよ。

K: なんだよ、

T: ベイビー、ベイビーいるから (K: あ! そういうことか!)。ベイビーついてるお母さんが、ベイビーに (K: いいな)、チョコケーキ買って、

K: 絶対可愛いぜ。

T: そう。ありがとうって言って、いつも買ってくる。週、ま、週1とかかな。あの、俺も、

K: ていうか、あそこはとさ、あれじゃね、なんか、ヨーロッパ系のよりアジア系、

T: アジア系多い。

K: 中国人っぽい、中国人、韓国人当たるとくね、駅って。

T: そう。中国語全くわかんないからね、でも何だかいたらあの人たちも英語ちょっと喋れるから、

K: マジ?? ちょっと喋れるんだよ、やっぱ。

T: なんか、軽い、

K: 会話?

T: ワン、ツーぐらいじゃない。

K: あ、マジで? 確かに。

T: ぶっちゃけ、買い物なんて、

K: I want it って

T: そうそうそう、簡単な英語だけわかれば、

K: 通じるからな。

T: そうそうそう。